

【評価実施概要】

事業所番号	0170401772		
法人名	日本体育施設株式会社		
事業所名	グループホーム やまのて		
所在地	札幌市西区山の手6条7丁目2 - 17 (電 話) 0133 - 25 - 2801		
評価機関名	NPO法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(2 2 年 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	15人, 非常勤 2 人, 常勤換算1.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1、2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	22,500 ~ 25,000 円	
敷 金	有 (43,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	667 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(2 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護 1	9 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 82.3 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国立病院機構西札幌病院、琴似記念病院、琴似ファミリークリニック等
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西区山の手中心部の一角に位置する鉄筋3階建て2ユニットのホームである。近くには学校、病院、公園、スーパーなどがあり、生活の利便性に恵まれている。施設内は利用者や職員の動線を巧みに取り入れ、介護上の諸用具を活用できるよう、様々な工夫と配慮がなされている。また居間も広く、団欒と食事が楽しめる空間になっている。職員は、管理者の下で適切な職務分担ができており、チームワークも良く、常に利用者笑顔で接し、利用者の表情も穏やかで明るい。家族も職員に対して高い信頼をおいている。これからも地域や家族に支えられて発展していくホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題は特にないが、自己評価課題として 地域との交流の進め方について 内部研修の進め方について 権利擁護事業や成年後見制度のあり方についてなどが課題になっており、現在、職員会議等で検討している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者が中心になり、全職員が評価の意義や目的を理解し、利用者の視点に立って現状を分析・検討し、課題の共有を図りつつ実施している。職員の意識向上、ケアの見直しに活かした積極的な取り組みが見られた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2カ月毎に開催している。会議では、ホームの活動報告、利用者の状況、運営上の課題や今後の取り組みなどについて意見交換されている。また懸案事項等についても取り組みの状況を報告し、意見をもらう等モニター的存在になりつつある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、苦情はできるだけ聞くような機会を設けている。これらの意見・苦情は、職員会議や運営推進会議などで話し合うなど運営に反映する仕組みもある。また、利用者の生活ぶりや行事の様子をホーム情報紙「やまのて」を送るなど家族との信頼関係の構築に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入。町内会の祭りや清掃活動等に会員として利用者と一緒に参加している。また近隣の学校や介護老人施設、地域住民との交流にも積極的に努めている。

2. 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの個性を尊重し利用者が笑顔で健康な毎日を送れる暮らしをサポートする」を理念とし、その理念に根ざしたケアに全職員で取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念をカードに記載、携帯すると共に、毎朝の申し送り時、カンファレンス等で常に理念を確認しながら、その実践に向けて日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会に加入。町内会の祭りや清掃活動等に利用者と一緒に参加している。また近隣の介護老人保健施設の行事等にも参加するなど積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は、自己評価・外部評価の意義を十分に理解している。前回の外部評価の結果を踏まえ間をおかず改善に取り組んでいる。今回の自己評価も職員全員で取り組んでおり、常にサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2カ月毎に開催している。会議では、ホームの活動報告、利用者の状況、運営上の課題や今後の取り組み等について意見交換され、これらの意見は記録され、福祉サービスの向上はもとより施設面の改善や地域交流事業の展開等にも活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市・区の担当課と連絡を取り合い、懇談や意見交換をしている。また運営上の課題が生じた場合にも助言・指導を受けるようにしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時やホーム情報誌「やまのて」を活用して、利用者の暮らしぶりや健康状態等を写真も貼り詳しく伝えている。金銭関係については、毎月出納帳、領収書を添付して送付、または訪問時に見せ、確認印をもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱の設置がある。家族の来訪時にも家族から意見、苦情等を聞いている。これらの意見・要望は、職員会議、運営推進会議で話し合い、運営に反映されるようになっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内異動が多く、2ユニットであることから、日頃から相互の職員との馴染み関係をつくっている。新しい職員が入った場合には、利用者に紹介し、早く馴染むよう配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、それぞれの職務に応じた研修希望を聞き研修計画を立て、職員の専門性の育成に取り組んでいる。研修終了後は報告書を提出し、職員会議等で全職員に報告している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入し、互いに交流する機会をもちサービスの質の向上に取り組んでいる。(施設見学会・研修会等)</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者がホームの雰囲気に馴染めるよう事前に見学や一緒に遊びにも参加するなどして、家族と相談しながら安心感をもってもらうよう段階的な工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族的ホームを目指して利用者の不安、苦しみ、喜びを知ること努め、共感できる関係を築いている。利用者の得意なことの力を発揮できるよう機会や場づくりに配慮、工夫している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話や行動から利用者の思いや意向を把握したり、本人に聞く機会を持ち、希望に添えるようにして支援している。意思疎通困難な人は家族からの聞き、意思の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリングは職員全員で行い、カンファレンスで話し合い計画作成担当者が作成している。介護計画は生活援助計画書に記録してケアの統一を図り実践している。本人、家族の意向や希望も反映して作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、3ヶ月を目安にカンファレンスで状況の変化や経過などを協議して見直しを検討している。状態変化時は随時見直し、現況に即した介護計画を作成している。新入居者は3ヶ月を観察期間として作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院支援、買い物支援、映画鑑賞支援など本人の要望に応じ、家族の状況も考慮して柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近隣の通院と連帯協力体制は構築されていて、かかりつけ医は月2回往診、看護師は週1回訪問していて24時間医療連帯体制も構築されている。入居前のかかりつけ医受診の人は通院受診の支援をしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期については指針を作成して本人や家庭と話し合いをしている。開設時から看取りの支援はないが24時間医療連携体制も構築されている。入居前のかかりつけ医受診の人には通院受診の支援をしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>介護方針に「尊厳を重視し～」を掲げ職員はプライバシーを損ねないケアを理解していて細心の注意をして支援している。記録などの個人情報の取り扱いも徹底している。カンファレンスや会議などで守秘義務の再確認をしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の一人ひとりの日々の生活習慣や行動ペース、その時の希望や思いを受け止めその人らしい暮らしに沿う支援に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフは会話をしながら同じテーブルで食事をしていて食事がコミュニケーションの場となっている。個々の食物の嗜好を把握して別メニューを提供することもある。調理の手伝いや後片付けをする力などを活かしながら食事支援をしている。嚥下体操をして嚥下低下の予防も取り入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者個々に合った入浴方法を目指して、自力で入浴される人、介助の人、拒否の場合は看護師の協力で入浴する人など本人の希望やレベルに合わせて支援をしている。事務所の行事として温泉に行くことを取り入れることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味、得意なこと等を情報収集してパズル、折鶴、園芸、調理手伝い、掃除など個々の出来ること。出来ないことを把握して活躍できる場面をつくっている。地下の広いスペースで2ユニット合同の行事やボランティアの『さわやかな体操』も楽しみごととなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、外食など外出する機会を作り気分転換を積極的に行っている。希望により映画鑑賞の支援するときもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施鍵はせずに入出入りは自由である。外出傾向のある人は居場所の確認をして見守り支援をしている。外出した時は同行して安全に努めている。夜間は施鍵をして防犯に対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練のマニュアルを作成してそれに基づき年2回訓練をしている。連絡網も作成して夜間想定訓練も実施している。災害時の利用者の状況を理解しており、訓練の重要性を認識し地域住民の協力を努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせ食事形態の配慮をして食事提供している。栄養士に依頼してカロリーチェックも行っている。食事、水分の1日の摂取量を記載して摂取量の把握に努めている。水分補給はゼリー対応の人もいて水分確保の工夫をして支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集うフロアは床暖房で最新式の空気清浄機が設置されていて清潔感がある。壁には絵画がかざられ、植木も置かれていて心が和むフロアとなっている。利用者は個々のペースで過され居心地よい共用空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品、仏壇など慣れ親しんだ物や大切な物が持ち込まれ、家族の写真も貼られていて自分の部屋として居心地よく安心して暮らせるように配慮されている。		

 は、重点項目。